

2020 年度学位記授与式祝辞

2021 年 3 月 19 日

静岡県公立大学法人理事長

尾池和夫

2020 年度、静岡県立大学大学院博士後期課程、博士課程を修了した 19 名の皆さん、博士前期課程、修士課程を修了した 96 名、5 学部を卒業した 598 名、短期大学部卒業の 129 名の皆さん、修了、卒業、まことにめでとうございます。

公立大学法人の役員、学長、副学長、研究科長、学部長、教職員とともに、皆さんの卒業と修了を心からお祝いいたします。あわせてご家族の皆様にも、ここからお慶び申し上げます。

JAMSTEC が持つ世界に誇るべき「ちきゅう」という海底掘削船があり、その母港が清水港に置かれています。それと同じように、皆さんの母港がこの静岡県立大学です。いつでも帰港していただければ、必要な整備をし、休養していただいて、またご活躍いただくよう、生涯学習の機能も今後充実させていきたいと思っています。

静岡県立大学を卒業した多くの方たちが世界の各地で、また日本の各地で活躍しています。今日からその仲間入りをして、大学を母校として、後輩の成長も見守ってください。

これからは生涯学習の時代です。学歴を更新しながら活躍してください。社会の変革に対応しながら学習する仕組みが重要です。大学もそれを意識しながら整備しますが、皆さんも生涯学習の仕組みを設計しておいてほしいと思います。

何ごとでも、何かを知ろうとしたとき、とことんその課題を突き詰めていくことで新しい知見が生まれてきます。例え大学でしっかり学習して何かをマスターしたと思っても、生涯にわたってそのことをさらに深めてほしいと思います。

例えば、学習するということを、川のことを知ることに例えてみたいと思います。私はこの静岡県立大学で仕事をするようになって以来、静岡県のことをさまざまな視点から学んでいます。その一つに多くの河川の水系のことがあります。その中で、大学のある静岡市を流れる安倍川を知るため、源流まで行って見て、多くの発見がありました。戦国時代には、武田信玄の隠し湯として使われた梅ヶ島温泉、山葵栽培発祥の地である有東木（うとうぎ）などがあります。

一つの川について、このようにまずその川の源流から観察します。さらに支流の一つひとつを歩きます。静岡県には多くの河川があります。安倍川は、全国で唯一、水源から河口までが一つの市で完結しているという一級河川です。上流部では、クマタカをはじめニホンカモシカ、ホンドモモンガなどの動物が、また、溪流にはアマゴ、カジカなどが生息しています。

先日、3月1日、安倍川の支流藁科川で溪流釣が解禁されました。水産庁では、溪流の天然魚を守り増やすことを提唱しています。天然魚を増やすことによって、溪流魚全体の資源を増やすことができます。天然魚は地域固有の財産であり、また、釣り人のニーズが高く、社会的経済的価値が高いのです。

安倍川では、昨年も一部の区域で「瀬切れ」が確認され、静岡河川事務所では渇水対策支部を設置して監視を強化していましたが、令和3年3月3日、瀬切れが解消したと発表しました。このように水系の広くない安倍川だけでも、視点を変えれば多くの情報があり、興味が尽きることはありません。これが大井川のような広大な水系を持つ河川になると、生涯の研究テーマになるほどのことがあります。

大規模な土木工事では河川に対して大きな影響があります。日本の河川行政に疑問を投げかけるきっかけは長良川河口堰の建設でした。反対世論の中で建設が強行され、本格運用から20年経過した今でも、まだ事業の是非は結論がなく、大型公共事業を検証するシステムがない日本の大きな課題となっています。

静岡県立大学には附属研究施設としてグローバル地域センターがあり、多くの課題について研究しています。火山噴火、洪水、地震、津波などの自然災害に関連しても、大いにこのセンターで研究活動を進めて行きたいと思っています。また、富士山頂から駿河トラフの底までについてもしっかりと研究を進めて行きたいと思っています。

今日ご卒業の皆さまも、今後とも、今まで以上に学習を重ねていただきたいと思います。生涯健康で生涯学習を重ねる、これが21世紀を生きるための合い言葉です。くれぐれも心身の健康に留意し、学習した成果を磨き上げながら、社会のさまざまな場面で活躍していただきたいと思います。願っております。

皆さん方が卒業された後にも、この静岡県立大学はさまざまな分野で発展します。世界の各地で活躍しながら、この大学の未来にも時には目を向けてくださるようお願いして、今日の修了、卒業式のお祝いの言葉といたします。

おめでとうございます。ありがとうございました。